

2020年(令和2年)度江戸川大学国立公園研究所の活動について(報告)

中島 慶二
国立公園研究所長

I 内外の国立公園、自然公園に関する資料の収集と整理

2018年度より研究所内の所蔵資料のリストをHPで公開し、閲覧・貸出を行っている。また、引き続き寄贈された資料等の整理・分類作業を行っている。

2020年度末には伊藤太一筑波大学教授の退官に際し、氏の所有する主に海外の国立公園関係の書籍や資料などを段ボール箱20箱ほどご寄贈いただいた。

II 国立公園研究所特別講座

2020年度、駒木学習センター講座はコロナ感染症対策によりすべて中止となった。

III フォーラム・講演・大学駒木祭参加等による啓発活動

1. 江戸川大学駒木祭(今号に別途詳細報告)

- ・日時：2020年11月2日(月)3日(火)
- ・場所：WEB開催
- ・主催：国立公園研究所
- ・内容：日光国立公園を中心に、写真で国立公園の風景を紹介しながら、クラシック音楽を生演奏で楽しんでいただく企画。コロナ禍により最終的には生演奏ではなくその映像をオンラインで楽しんでいただくこととなった。

駒木祭のプログラムにおいて最初の配信を行い、その後、大学のウェブサイトの研究所のコーナーにおいて動画を公開している。

2. ウェブページによる普及啓発

江戸川大学のウェブページの中に国立公園研究所のコーナーを設け、随時更新しつつ資料公開を行っている。

IV 国立公園に関する研究等の実施

1. 論文・論説・研究報告等(今号に掲載したもの)

- ・磐梯朝日国立公園の磐梯・吾妻地域と猪苗代湖地域の国立公園指定の道程に関する考察 油井正昭
- ・アイルランドの国立公園制度について～キラニー国立公園成立の背景～ 親泊素子
- ・日本と台湾における環境教育法制の運用をめぐる課題と展望——比較研究にむけた予備的検討—— 斉藤雅洋・佐藤秀樹・張子超
- ・自然公園法の制定時における検討の諸要素について(予報) 中島慶二
- ・国立公園の利用者増に向けた方法論的原理の検討—「場所の記憶」をどのようにつむぐか— 土屋薫
- ・報告「オンライン国立公園映像コンサート」の制作 宮地信良

2. 雑誌「国立公園」への寄稿

- 雑誌「国立公園」通巻第782号(令和2年4月号)～第791号(令和3年3月号)まで、計9編を寄稿した(今号に掲載したもの)
- ・連載第17回(令和2年4月号)公園計画と統制 中島慶二
 - ・連載第18回(同6月号)保護地域管理カテゴリの展開 伊藤太一
 - ・連載第19回(同7月号)公園事業制度を再考する 中島慶二
 - ・連載第20回(同9月号)国立公園創設へ内務省衛生局保健課の若い職員の活躍 油井正昭
 - ・連載第21回(同10月号)民間公園事業制度の理想と現実(上) 中島慶二
 - ・連載第22回(同11月号)ブラック・ライブズ・マター(Black Lives Matter)と国立公園 親泊素子
 - ・連載第23回(同12月号)コロナ禍における環境保全とSDGsの意識に関する動向～若い世代を中心として 佐藤秀樹
 - ・連載第24回(令和3年1月号)民間公園事業制度の理想と現実(下) 中島慶二

- ・連載第25回(同3月号)国立公園とクマによる人身事故 中島慶二

V その他

1. 年次報告の発行

国立公園研究所年報第5号を発行し、関係者へ配布した。(12月)

2. 国立公園研究所調査研究スカラシップについて

令和2年度の1年間については、コロナ禍の影響で現代社会学科の海外研修が取りやめとなり、学生の貸与希望はなかった。

3. 休暇村協会からの寄付と学生支援について

平成29年度末、一般財団法人休暇村協会から、国立公園に関する研究を推進している江戸川大学の教学の理念に賛同するとして、大学に対して100万円のご

寄付を賜り、これを原資として、現代社会学科学生の研修旅行等への旅費支援(国内は5千円、海外は2万円を上限)を行っている。

しかしながら、コロナ禍の影響で海外研修が取りやめとなったことなどから、助成実績はなかった。

4. 自然公園財団との業務契約について

平成30年4月より、一般財団法人自然公園財団と、江戸川大学国立公園研究所の間で業務契約を結び、今年度は以下の業務を実施した。

業務内容：

- ①自然公園財団出版物の監修(中島慶二研究所長による)
2021自然公園の手びき
「国立公園」誌編集委員会への参加
- ②「国立公園」誌への定期寄稿(今号に転載したもの)